

## お知らせ



国土交通省  
中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism  
Chugoku Regional Development Bureau

平成26年4月23日

資料提供先

岡山県政記者クラブ

なごう

## 河川功労者表彰に名合氏（岡山大学名誉教授）の受賞が決定！！

河川功労者表彰は、河川研究分野で多大な貢献をされた研究者や河川愛護活動等について功績があった団体等について、公益社団法人日本河川協会が毎年実施しているものです。

この度、岡山県から岡山大学名誉教授 名合宏之氏（中国地方ではその他2団体）が受賞することが決まりましたのでお知らせします。

なお、授賞式は5月26日に東京都千代田区（砂防会館別館）で実施されます。

～受賞者のご紹介～

### ○名合 宏之（なごうひろし）：岡山大学名誉教授

水工学を専門とされ、河川における土砂輸送や構造物周辺における局所洗掘現象の研究功績、さらには、岡山県一級水系（吉井川・旭川・高梁川）における河川整備計画の策定においては、学識懇談会の座長を務められるなど、河川の整備・管理等多方面において多大な貢献をされました。

### 【参考 中国地方の他の受賞】

○（団体）水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊：山口県防府市

○（団体）日野川の源流と流域を守る会：鳥取県日野郡日野町

★詳細は公益社団法人日本河川協会HPをご覧ください

<http://www.japanriver.or.jp>

□問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 電話番号 086-223-5101（代表）

岡山河川事務所 副 所 長 <sup>かわしま</sup>川島 <sup>あきまさ</sup>明昌（内線205）

調査設計課長 <sup>にこ</sup>児子 <sup>しんや</sup>真也（内線351）

## 【参考資料】

平成26年4月22日  
公益社団法人 日本河川協会

### 平成26年河川功労者の決定及び表彰について

平成26年河川功労者が決定いたしました。この功労者については、平成26年度定時社員総会において、表彰を行います。

なお、当日の取材にあたっては、報道者席を用意いたしております。

日 時 平成26年5月26日(月)午後2時30分から  
場 所 砂防会館別館シェンバッハ・サボー

#### 記

1. 平成26年河川功労者表彰について…………… 資料1
2. 平成26年河川功労者表彰者名簿…………… 資料2

問合せ先：公益社団法人 日本河川協会  
〒102-0083  
東京都千代田区麴町2-6-5  
麴町E・C・Kビル3F  
担 当：住吉  
電 話：03-3238-9771  
FAX：03-3288-2426

## 平成26年河川功労者表彰について

1. 河川功労者の表彰は、当協会の事業の一環として、当協会の河川功労者表彰規程に定める下記事項に該当する個人及び団体について毎年定時社員総会において表彰しています。
2. 河川功労者は、毎年、都道府県知事、地方整備局長及び河川関係公益法人の長等から推薦していただき、当協会の「河川功労者表彰審査委員会」で審査し、理事会で決定しています。
3. この表彰は昭和24年から実施しており、平成25年までに3,376名の方々を表彰いたしました。
4. 今年の表彰者は、資料2のとおりです。  
表彰者の総数は、個人45、団体40、合計85の個人及び団体となっております。

### 記

- ① 歴史、文化活動または芸術活動等により河川文化の発展に寄与し功績があった場合
- ② 河川の整備や管理に関連する諸活動を通じ、河川災害の防止、水資源の開発、河川環境の整備や保全、流域内の合意形成に関し功績があった場合
- ③ 水防活動、水害時の人命救助、防災体制の整備・充実又は災害の早期発見と迅速な情報伝達等に顕著な功績があった場合
- ④ 河川の自然保護・環境学習・河川愛護等の活動に功績があった場合
- ⑤ 河川や水に関する学術的研究または技術開発に従事し、河川の整備・管理・利用等に役立つ成果をおさめた場合
- ⑥ 河川の利用を通じた産業の振興、地域活性化等により新しい文化の創造に功績があった場合
- ⑦ 河川や水の分野において国際的に活躍した場合、又はこの分野において日本との交流と連携を深めるために功績があった場合
- ⑧ 本会の発展に顕著な功績があった場合又はその他特に表彰を必要と認められた場合

## 平成 26 年河川功労者表彰者名簿

第 5 項 河川や水に関する学術的研究又は技術開発に従事し、河川の整備・管理、利用等に役立つ成果をおさめた場合  
(個人14)

氏 名	職 業	功 績 等	住 所
三 井 宏	徳 島 大 学 教 授 名 譽 大 教 授	水工学を専門とし、吉野川水系を調査・研究の対象として活動する研究者が設立した「吉野川学会」の初代会長として、吉野川に関わる利水・治水・歴史・林学・工学等の論文・研究成果をとりまとめるなど、河川の整備・管理等に多大な貢献をされた。	徳島県板野郡北島町
下 津 昌 司	元熊本大学教授	河川工学の学識者として、「白川水系河川整備基本方針」策定時の白川技術検討会の委員、「白川河川整備計画」検討時の委員・委員長、また「緑川流域委員会」の委員長、「緑川水系河川整備計画」の学識者懇談会の座長を務めるなど、河川の整備・管理等に多大な貢献をされた。	熊本県熊本市
宇 野 尚 雄	岐 名 大 学 教 授 名 譽 大 教 授	土質・地盤工学が専門の学識者として、国土交通省の堤防技術研究委員会の座長を長年務められたほか、近畿地方整備局の円山川堤防調査委員会、由良川堤防調査委員会の委員長として堤防決壊原因の究明、復旧工法等についてとりまとめられ、近畿地方整備局堤防技術研究会のアドバイザーを務められ堤防技術全般にわたり指導・助言を行うなど、堤防に関する研究・技術開発に多大な貢献をされた。	兵庫県西宮市
首 藤 伸 夫	東 北 大 学 教 授 名 譽 大 教 授	津波研究等の分野で世界的研究者として学術的に大きな貢献をされるとともに、北上川水系河川整備計画の策定において「学識者懇談会」の座長を務められ、新たに津波を外力に加えて堤防高を変更する等、東日本大震災を反映した計画に取り組まれるなど、河川の整備・管理等に多大な貢献をされた。	宮城県仙台市
名 合 宏 之	岡 山 大 学 教 授 名 譽 大 教 授	土木工学（水工学）、水中地盤内の挙動に関する研究を専門とされ、岡山県内の吉井川・旭川・高梁川水系の河川整備計画策定にあたり、河川における土砂輸送や構造物周辺における局所洗掘などについて指導を行うとともに、「学識者懇談会」の座長を務められ、総合的な視点から河川を捉まえるなど、河川の整備・管理等に多大な貢献をされた。	岡山県岡山市
(故人)大年邦雄	元高知大学教授	防災水工学を専門とされるほか、水循環、河川工学、地下水工学等の研究を進められ、これらの研究成果を活かし、四国地方の国、地方公共団体の各種委員会等の委員、会長を務められ、特に仁淀川水系河川整備計画では「流域学識者会議」の議長を務めるなど河川の整備・管理等に多大な貢献をされた。	高知県高知市
豊 口 協	学校法人長岡造形大学理事長	専門分野である自然科学、人文科学、社会科学の融合体としてのデザイン学の構築の知見を活かし、「大津洗堰周辺景観検討委員会」、「大津津可動堰改築検討委員会」の委員として、事業特性・地域特性、自然環境を考慮した堰の設計や施工計画の立案等、良好な環境の保全・創出等に多大な貢献をされた。	新潟県長岡市
西 山 邦 夫	無 職	植物分野が専門の学識経験者として、5次にわたる「信濃川河川水辺の国勢調査」のアドバイザーを務められ、自然環境への配慮等について助言されたほか、十有余年にわたり「信濃川と自然環境に関する懇談会」の委員として、良好な環境の保全・創出等に多大な貢献をされた。	新潟県長岡市
今 井 嘉 彦	高 知 大 学 教 授 名 譽 大 教 授	環境化学が専門で、主に水域（水質）分野において、沿岸海水、内陸水の境界領域における水質汚濁の研究、都市河川の水質汚濁対策に関する調査の研究等を進められ、これらの研究成果を活かし、国、地方公共団体の各種委員会等の委員、委員長を務められるなど河川の整備・管理等に多大な貢献をされた。	高知県高知市
山 岸 哲	元山階鳥類研究所	生態学（鳥類）の学識者として、河川生態学研究会の研究グループ代表や社会資本整備審議会河川分科会委員を務めるとともに、日本水大賞委員会の委員長や応用生態工学会の立ち上げに尽力され会長を務めるなど、生態学的観点から河川管理の充実・強化等に多大な貢献をされた。	長野県長野市
(故人)福留脩文	元（株）西日本科学技術研究所代表取締役	環境に配慮した改修技術で河川を再生させ「川の外科医」として知られ、近自然工法による環境の復元を実践しながら、治水と環境を両立した河川工法の開発・普及に努められるなど、河川の整備・管理・利用等に多大な貢献をされた。	高知県高知市
吉 羽 雅 昭	東 京 農 業 大 学 教 授 名 譽 大 教 授	土壌学、植物栄養学が専門の学識者として、網走湖の水質改善のための底泥浚渫の現地試験、調査・研究を重ね、石灰、ホタテ貝殻等による中和処理、風化作用を活用した改良手法を確立するとともに、浚渫土の農地への活用を図ることにより網走湖浄化事業の推進、流域負荷削減に多大な貢献をされた。	神奈川県伊勢原市
板 倉 忠 興	北 海 道 大 学 教 授 名 譽 大 教 授	河川工学の学識者として、道内の河川の河床形態や乱流拡散現象の研究や水工・環境水理学公式の基準化に関する研究などに成果をあげられ、「千歳川流域治水対策検討委員会」委員のほか、石狩川のリバー・カウンセラーとして行政に対し適確な助言を行うなど、河川の整備・管理等に多大な貢献をされた。	北海道札幌市
鈴 木 徳 行	名 城 大 学 教 授 名 譽 大 教 授	ダム建設においてRCD工法の設計理論を研究・開発・確立させ、中・大規模ダムの主流の施工法となっており、世界の多数の国々においても利用されているほか、水系一貫した総合土砂管理方式を日本で最初に確立するなど、ダム事業・河川事業の整備等に多大な貢献をされた。	愛知県春日井市

(団体 2)

名 称	功 績 等	住 所
経年化浄水施設における原水水質悪化等への対応に関する研究グループ	河川水質の変化に対応した処理技術・管理手法において多くの研究成果を収めるとともに、中小事業者向けに導入しやすく有効な改善・強化方策を提供することにより、河川の健全な水利用の推進に多大な貢献をされた。	東京都港区
沖 縄 県 企 業 局	長年にわたる技術開発等により、供給する水道水にトリハロメタン前駆物質等の除去対策を講ずる等、水資源の有効利用に役立つ優れた成果を収めるとともに、水源となる河川の環境保全にも多大な貢献をした。	沖縄県那覇市